

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ②施設・事業所情報

名称：明日葉保育園武蔵新城園	種別：認可保育所
代表者氏名：三浦 直子	定員（利用人数）： 65名（利用人数：70名）
所在地：〒206-0022 川崎市高津区千年1026	
TEL：044-740-9993	
ホームページ：https://www.ashita-ba.jp	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成26年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 あしたばマインド	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 5名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：15名 栄養士：2名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6 トイレ：2 調理室：1 事務室：1 休憩室：1
	（設備等）園庭：有（168.02㎡）

## ③理念・基本方針

## ◆保育理念

「子どもの明日を育み、今日を支える」

明日葉の花言葉は「旺盛な活動力」私たちは、子どもが毎日を豊かに過ごせる保育を通じて、明日をたくましく生きる力を育みたいと考えます。そして、子どもの健やかな成長を願うご家庭や地域社会とのコミュニケーションを大切にして、より良い今日をサポートします。

## ◆明日葉保育園 武蔵新城園保育目標

自分も人も尊重できる子ども	（自己肯定感と思いやり）
自分で考えて正しいことを選びとれる子ども	（自立と自律）
心も体も健やかな子ども	（健康と笑顔が一番）
思いを適切に表現できる子ども	（個性豊かに）

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

わくわく！笑顔が一番！子どもたちの心を一番に育てます。

○三つの柱

- ・食育 ・リトミック ・体操教室

○乳児期は個々を大切に

- ・少人数グループ担当制
- ・大人にたくさん抱っこされ、可愛がられて育ちます。
- ・大人からたくさん愛されることによって、生きる喜びを感じながら、育ちます。
- ・やさしく丁寧にお世話されながら、生活の仕方を覚えます。
- ・わらべ唄あそびを取り入れています。やさしく心が安定します。
- ・感覚を刺激するあそびをたくさんします。
- ・指先のあそびをたくさんします。

○幼児期は心と身体の自立を目指します。

- ・集団の中で友だちと一緒にする体験を通して、コミュニケーションを学びます。
- ・毎週一日、縦割り保育の日があります。異年齢の中で刺激を受けて育ちます。
- ・さまざまなあそびを通して、主体的に生きる力を育みます。
- ・各年齢発達に合った課業、課題に取り組みます。
- ・コーナー保育、調べあそびなど、自主性が育つ環境があります。
- ・たくさん歩き、体力づくりをします。
- ・たくさん自然に触れ、豊かな感性を育みます。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年6月24日（契約日） ～ 令和4年4月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2016年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもの主体性を育めるように支援しています

法人全体の保育目標に、「自分で考えて正しい事を選び取れる子ども」とあり、子どもの主体性を大切にしたいものになっています。着替え、片付けなどの基本的習慣については、子どもがどのようにしたら自分でやってみようという気持ちを持てるかを考え、時間に余裕をもった保育を行っています。子どもが上手くできない時には、職員が手本を見せ、子どもの『できた』につなげています。できた時には褒めてできた喜びを感じられるように取り組んでいます。子ども一人ひとりの特性を大切にして、子どもが主体的に「してみよう」という気持ちになるように支援をしています。

2)職員の連携がよく、園全体で子どもを見守っています

職員は日頃から、保育士としての自覚を大切にして行動しています。若い職員が多いのですが、保育の質を上げる努力、丁寧な保育を目指す意識が高く、自身の方向性を考えて保育に取り組んでいます。園全体は調和のとれた人間関係で、風通しの良い環境になっています。日々の保育や子どもたちの事についてもクラスを超えて話し合いができ、より良い支援について職員の連携と共有ができる環境があります。日々の取組が保育の質の向上に繋がっています。

### 3) 地域と活発に交流しています

園の立地する地域は、現在でも古くからの伝統や行事を大切に継承しており、園も地域のイベントには積極的に参加して交流を図っています。1月の「どんど焼き」には今年も4、5歳児が参加し、小学生と共に学校の校庭で書き初めを焼き、おき火で餅を焼くなどの交流をしています。コロナ前は夏祭りにも参加し、婦人会の指導で事前に踊りを練習したり、職員は浴衣の着付けも共に習って参加するなど地域と密着した交流が行われてきました。高齢者施設訪問では歌を披露し、お年寄りと一緒に歌を歌うなどの交流もありました。コロナ禍の現在は毎月1回壁面装飾を届けたり、ビデオレターを見てもらうなど、コロナ収束後の訪問再開に向けて交流を続けています。

#### ◇改善を求められる点

##### 1) 園内研修と職員の目標管理への支援

今年度、産休・育休等を取得している職員が多く、経験年数の長い職員が少ない状況にあります。そのため、継承するための園内研修が必要であったがコロナ禍ため実施回数が少なくなり、課題としています。また、職員は年度初めに「チャレンジ目標」を作成して、保育スキルの改善や専門性の向上に取り組んでいる中で、園長との十分な面談時間が取れなかったことが課題です。今後保育の質向上に向け、特に若い保育士の育成を期し、園内研修の充実と職員との面談指導の充実が期待されます。

### ⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審させていただき、これまでの保育と運営を見なおす良い機会になりました。

職員も自分たちの保育を振り返り、気づきがあったことで、さらなる保育の質の向上に向けて話し合っております。

この評価結果と保護者様のご意見を真摯に受け止め、より良い保育サービスの提供と子どもたちの最善の利益をめざします。

また、社会状況にあった保育環境の整備も意識しながら、保育園としての自己研鑽をかさねてまいります。

### ⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり